



## 唐臼のある水辺



## DATA・BOARD 56



- ① 佐賀県西松浦郡有田町字白川
- ② 延長約40m、面積約850㎡
- ③ 杉皮葺きの小屋、唐臼2基、石積み、石畳、照明灯、説明板
- ④ 三間坂石、磁器
- ⑤ 有田陶器市、陶祖祭、有田産業祭、有田国際ファインセラミックシンポジウム、陶都有田健康ロードレース、ちやわん祭

唐臼は、江戸時代から昭和の初めまでの長きにわたり、陶磁器の原石を粉砕する道具として使用されてきたものである。唐臼のある水辺の整備は、歴史的環境を生かしたまちづくりの一環として、今は見られなくなった唐臼を白川川に復元し、河川環境の整備を行ったものである。整備にあたっては、松皮葺きの小屋に二基の唐臼を設置し、周囲に地場産材の三間坂石を用いた石積み、石畳、照明灯を設置した。三間坂石は、有田地方で採取される自然石で、江戸時代から宅地まわりの石積みや家の基礎、河川の護岸などに使用されており、歴史的景観にもよく調和した素材となっている。

白川川に復元された唐臼は、有田の歴史の一部を伝えるとともに、焼物のまち有田の風情を醸し出している。